

県立川崎図書館の移転に係る神奈川県との調整状況について

1 県立川崎図書館に係る神奈川県との調整経過について

- (1) 平成29年2月15日付「神奈川県教育委員会と川崎市教育委員会との県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議の設置等に関する協定書」を締結
- (2) 協定に基づく県・市の協議・調整事項
 - ① 県立川崎図書館から川崎市立図書館に移管する図書・資料に関する事
 - ② 県立川崎図書館が川崎市立図書館と連携して実施する講座等に関する事
 - ③ 県立川崎図書館移転後の建物に関する事
 - ④ その他協議及び調整が必要と認められる事項に関する事
- (3) 調整会議等の開催状況等について
 - ・ 平成29年2月 県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議（第1回）
日 時 平成29年2月20日（月）13：30～14：30
県から、詳細検討は部会を立ち上げて実施する旨提案があり、図書資料及び連携事業に関する部会と建物の除却に関する部会の立ち上げが承認された。
 - ・ 平成29年3月 県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会（第1回）
日 時 平成29年3月22日（水）15：00～16：30
 - ・ 平成29年5月 県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会（第2回）
日 時 平成29年5月31日（水）10：30～12：00
 - ・ 平成29年8月 県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会（第3回）
日 時 平成29年8月1日（火）15：30～16：30
 - ・ 平成29年8月 県立川崎図書館移転後の建物に関する検討部会（第1回）
日 時 平成29年8月1日（火）14：00～15：00
 - ・ 平成29年8月 県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議（第2回）
日 時 平成29年8月28日（月）14：00～15：00

2 県立川崎図書館から市立図書館へ移管する図書・資料について

(1) 経過

- ・ 平成29年2月20日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において、県から、市立図書館で活用が見込まれる図書・資料（案）についての説明があった。
- ・ 平成29年3月22日 「県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会」において、県から、市立図書館での活用を依頼する図書・資料（約1万冊）についての説明及び図書・資料リストの提示を受けた。

- ・平成29年5月31日 「県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会」において、市における検討状況について報告をした。
- ・平成29年8月1日 「県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会」において、本市より「本市で活用する図書・資料について」を県に提示した。
- ・平成29年8月28日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において承認される。

(2) 活用する図書資料

項目	図書・資料名	冊数
新聞縮刷版	日経新聞縮刷版 (1949年4月－1961年6月)	146冊
児童雑誌	たぐさんのふしぎ	300冊
計		446冊

(3) 活用する理由

- ・「新聞縮刷版」のうち、「日経新聞縮刷版」は、市立図書館において1961年7月以降から現在までの縮刷版を所蔵しており、今後も収集する予定であることから、市において未所蔵である1949年4月から1961年6月までの縮刷版について提供を受けることとした。
- ・「たぐさんのふしぎ」については、市立図書館において、子ども向けの書籍として所蔵し、内容により部門分けした上で開架等をおこなっている。今回、一括で移管を受けることにより、子どもたちを対象とした企画展示等の開催が可能であるなどの新たな活用方法が見込まれたため、提供を受けることとした。

(4) その他の資料

「やさしい科学コーナーに設置されている図書・資料」及び「ビジネス関連の図書・資料」については、県から提示された図書・資料リストにより、本市での所蔵の有無について照合を行った結果、約7割を所蔵していた。残り3割については出版年から一定期間経過している資料がほとんどであり、科学・ビジネス分野であることを考慮すると受入れは難しく、辞退することとした。

(5) 今後の予定

移管を受ける図書・資料については、引き続き、県との調整を図りながら、平成29年10月以降の移管に向けて準備を進めていく。

3 県立川崎図書館と市立図書館が連携する事業について

(1) 経過

- ・平成29年2月20日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において、県から、県立川崎図書館の資料や人材を活用した、展示や講演会の実施に当たり、本市との連携の可能性について打診があった。

- ・平成29年3月22日 「県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会」において、県立川崎図書館で実施された平成28年度実施概要について説明を受けた。
- ・平成29年8月1日 「県立川崎図書館の移管図書・連携事業検討部会」において、県から移転後の事業イメージ説明を受けた。市として、場所の提供や広報、展示などの協力が可能と提示した。今後の進め方について検討をおこなった。
- ・平成29年8月28日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において、具体的な連携事業内容については、県立川崎図書館と市立図書館の実務担当者レベルで検討を進めることが承認される。

(2) 今後の予定

県立川崎図書館の専門性を活かした講演会や展示の実施に当たっては、本市としても協力などの連携を相互に行うとともに、移転後の県立川崎図書館の特色や事業などについても情報発信していきたい。なお、具体的な連携の内容については、平成30年度の県立川崎図書館の事業概要が確定したのち、県立川崎図書館と市立図書館が実務担当者レベルで検討を進める。

4 県立川崎図書館の移転後の建物について

(1) 経過

- ・平成29年2月20日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において、移転後は速やかに除却したい旨説明を受けた。
- ・平成29年8月1日 「県立川崎図書館移転後の建物に関する検討部会」において、現在県が想定している移転後の建物の除却についての考え方について、説明を受けた。
- ・平成29年8月28日 「県立川崎図書館の移転に係る県・市教育委員会調整会議」において、引き続き「県立川崎図書館移転後の建物に関する検討部会」で課題の整理等を行うことを確認した。

(2) 今後の予定

県立川崎図書館の除却については、県から平成30年度に除却設計、平成31年度に除却工事に着手する方向であるという考え方が示されていることから、引き続き課題の整理等を行いながら、県と調整していく。

5 県立川崎図書館の移転スケジュール

- ・平成29年10月～11月 部分開館
一部のサービスが休止（貸出、予約・リクエスト受付、1階ビジネス室の利用が不可）
- ・平成29年12月～平成30年5月中旬 休館
全サービスが休止
- ・平成30年5月中旬 移転開館（予定）

(参考資料1) 県立川崎図書館に関するこれまでの経過

- ・平成24年10月「神奈川県緊急財政対策」を公表⇒県有施設見直しの基本的な考え方を提示
県立川崎図書館については、検討の方向性として、機能の純化・集約化を含めた検討とされた。
- ・平成24年11月 県議会「決算特別委員会」：県生涯学習課長答弁（要旨）
機能の純化とは、県立図書館の役割を見直し、図書の見直し・貸出を廃止する方向で検討することであり、集約化とは、川崎図書館の敷地は、川崎市からの借地であり、市の再編整備計画により、平成29年度末までに現在地から移転する必要があることから、県立図書館等との集約化を含めた検討を行うと答弁された。
- ・平成25年2月「緊急財政対策の取組状況」を公表⇒県有施設見直しのロードマップを提示
県立川崎図書館については、調整の方向性として、川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への特化、県立図書館への集約化等に向けて調整とされ、30年度当初に集約化等を行うとされた。
- ・平成25年6月「県民利用施設見直しの方向性に関する説明資料」を公表
県立川崎図書館については、方向性として、川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への高度化・特化、市内への移転について検討とされ、説明として、ロードマップの「調整の方向性」で、「機能への特化、県立図書館への集約化等」と表記していたが、「機能への高度化・特化、市内への移転」に変更したとされた。
- ・平成25年12月 県議会「代表質問」：県知事答弁
川崎図書館の移転先として、KSPが総合的に見て適地であるとの判断に至ったと答弁された。
- ・平成26年2月「緊急財政対策の取組結果」を公表
県立川崎図書館については、今後の取組内容として、29年度中に機能を特化し、かながわサイエンスパークに移転とされた。
県立図書館については、29年度中に川崎図書館の一部蔵書を受入れとされた。
- ・平成28年9月 県議会「代表質問」：県教育長答弁
県立川崎図書館については、ものづくり技術を支える機能に特化した特色ある図書館にしていきたい。こうした機能を発揮していくためには、現在の蔵書の3分の2程度の専門的図書・資料が必要になると考えていると答弁された。
- ・平成28年11月「県立川崎図書館の移転に向けた意見交換会」（神奈川県教育委員会主催）
日 時 平成28年11月25日（金）18:30～20:30
場 所 川崎市産業振興会館 9階 第3研修室
参加者 27名

(参考資料2)

県立川崎図書館のかながわサイエンスパーク（KSP）への移転について

1 移転の概要

県立川崎図書館は、技術・工学系の専門的図書・資料、特許・規格関係の図書・資料を収集・提供し、企業の技術開発などを支援してきたことから、その実績を基盤とした、ものづくり支援の機能に特化した図書館として、KSPに移転する。



【KSP】

(1) 所在地

川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 KSP内

(2) 主な用途

- ・ 西棟 2階：開架・閲覧スペース
- ・ R&D棟 2階：閉架書庫及び事務室
- ※ 面積については、現在調整中

(3) 目指すべき図書館像

「ものづくり技術を支える機能」に特化した専門図書館として、全国的にも例のない特色ある図書館を目指す。

(4) 移転後の機能

- ア 製造業等の「ものづくり技術」の高度化や、技術開発をバックアップ
- イ 知的財産に関する支援、その他関連業務の(地独)神奈川県立産業技術総合研究所(産技総研)との連携・ワンストップ化
- ウ ものづくりに役立つ先進的情報の発信

(5) 移転後の事業

現在の閲覧・貸出・レファレンスサービス等の事業を継続するとともに、ものづくり技術関連資料の充実を図り、各種事業を展開していく。

ア 特色あるサービス

- ・ 電子ジャーナル、データベース等のデジタル情報の提供(計画的整備)
- ・ (地独)神奈川県立産業技術総合研究所連携した企業支援・知的財産に関する相談(新規)
- ・ ものづくり入門のためのミニコーナー(仮称)

イ 広報・普及

(ア) 広報活動(展示等)

- ・ (地独)神奈川県立産業技術総合研究所、KSP、産業団体等と連携した県内各地域における出前講座等(新規)

(イ) 講座・イベント

- ・ 弁理士会等と連携した各種知的財産セミナー
- ・ ものづくりに関する資料の調べ方講座等の各種公開講座
- ・ ものづくりカフェ(仮称)

(6) 移転後の蔵書

ア 県立川崎図書館の蔵書

県立川崎図書館の蔵書約43万冊(※)のうち、ものづくりに関連する蔵書については、約30万冊をK S Pで、その他の約11万6千冊を外部書庫で保管し、県立川崎図書館の蔵書として一体的に管理・活用していく。(※移転時の想定所蔵冊数)

(ア) K S Pでの保管 (約30万冊)

ものづくり技術を支える基礎から最先端の図書・資料

- ・ 全ての専門誌 (学会誌、技術報告書等)
- ・ 全ての特許・規格関連の図書・資料
- ・ 時代の要請に応じた新しい分野 (A I、I o T、バイオ等) の専門書
- ・ 全ての社史、川崎公害裁判訴訟記録
- ・ 辞書・辞典、最新の統計書等のものづくりに役立つ基礎資料

(イ) 外部書庫での保管 (約11万6千冊)

- ・ 新技術創出のため、過去の技術を遡って研究するための専門書
- ・ 過年度の統計書等

イ 他施設で活用する蔵書 (約1万4千冊)

(ア) 県立図書館の関連図書と一体的に管理・活用

- ・ 経営者伝記、郷土資料等

(イ) 地域に身近な川崎市立の図書館での活用

- ・ やさしい科学コーナー配架の一部、ビジネス書、新聞縮刷版等

(7) 利用環境

- ・ 閲覧室をワンフロアに集約
- ・ I Cタグ・セキュリティゲートを導入し、利便性の向上を図る。

2 移転及び休館に係る広報

- ・ 県立川崎図書館、県立図書館等にチラシを配架
- ・ 県ホームページ、「県のたより」等に掲載
- ・ 商工関係団体等を通じて、企業等に周知

3 今後の予定

平成29年10月 貸出し業務の休止

平成29年11月 平成29年第3回定例会 (11月) に神奈川県立図書館条例の改正議案を提出

平成29年12月～ 移転等に伴う休館

平成30年5月中旬 開館予定

※ 年間を通して、随時、調整会議等において川崎市教育委員会と調整を行う。